

研究協力をお願い

昭和大学藤が丘病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

負荷心筋血流シンチグラフィにおける腹臥位追加撮像を実施する判断基準となる指標の検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2018年4月1日から2022年7月31日までに当院において負荷心筋血流シンチグラフィを施行した患者さんを対象としています。

2. 研究目的・方法

心臓が正常に動くためには心臓を動かす筋肉（心筋）に栄養や酸素を送る必要があります。心筋を取り巻く血管を冠動脈といいます。この冠動脈が動脈硬化などで狭窄や閉塞が起こると、心臓自身に必要な血液が遅れなくなり、心筋に障害が生じます。負荷心筋血流シンチグラフィでは心筋に集積しやすい特徴をもつ放射性医薬品の投与・撮像を行うことで、心筋の機能や心筋に流れる血流量を画像化することができます。

この負荷心筋血流シンチグラフィでは心筋の下後壁の血流低下を判断する上で、腹臥位（うつ伏せ）での追加撮像が有効であると報告されています。しかし、腹臥位での追加撮像は患者に与える負担が大きく、撮像が困難な場合があります。

この研究では負荷心筋血流シンチグラフィでの下後壁での集積低下の要因や程度について、背臥位（仰向け）での撮像画像から腹臥位での追加撮像が必要における判断基準を検討することを目的としています。

方法は、負荷心筋血流シンチグラフィの画像所見と心臓CT検査または心臓カテーテル検査画像所見が一致した症例を後方視的に収集し、収集した症例を男女別に負荷時の背臥位・腹臥位の両方において集積低下が認めない群、背臥位にて下後壁に集積低下を認め、腹臥位にて下後壁の集積低下が改善した群、背臥位・腹臥位の両方において集積低下が認められた群の3つに分けます。これら3群を用いてBMI、体周囲長、HRV-S score等が、負荷心筋血流シンチグラフィに及ぼす影響について検討を行います。

研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会にて審査後、委員会から発行される結果通知書の承認日より、研究機関の長の研究実施許可を得てから2024年9月30日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2018年4月1日から2022年7月31日までに昭和大学藤が丘病院において負荷心筋血流シンチグラフィを施行した患者データを調査対象としております。

4. お問い合わせ先

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学藤が丘病院放射線技術部 氏名：大桃 真裕

住所：神奈川県横浜市藤が丘1丁目30番地 電話番号：045-971-6311

研究責任者：大桃 真裕